

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームなの花すながわ(1号館)	評価実施年月日	平成20年12月13日
評価実施構成員氏名	高島 真由美 江畑 圭輔 佐藤 舞 中川 光子 笠島 美香 空知 絵里香 和田 利代子		
記録者氏名	佐藤 舞	記録年月日	平成20年12月30日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	運営理念の中に地域を意識したものがあり、それと共に入居者らしく生活していただけの理念もある	○	事業所内に掲示してある理念を訂正する
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝申し送りで理念を確認している為共有はできている。日々取り組んでいるかはスタッフにより差がある	○	1人1人が理念に基づき支援しているか、毎月のカンファレンスで確認していく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族の方々には説明しているが理解してもらえているかは定かではない。地域の方々へは接する機会が少ない為、理念を説明できていない	○	地域の方々に集まって頂き理念を説明し理解を得る。事業所のパンフレットに理念を掲載する
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩に出た時は挨拶を交わす。また、近所の方が事業所に遊びに来て、一緒にお茶を飲んだり、庭の草むしりをして下さったり、野菜や花を差し入れして下さい	○	回覧板を利用し、もっと事業所を知ってもらい気軽に来て頂けるようにアプローチしていく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内のゴミ拾いに参加している。また、行事の時は事前に案内を出し、地域の方にも参加してもらっている。町内会にも入会している	○	今取り組んでいる事は継続していき、事業所側も町内会・自治会に参加していく
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	砂川市立病院付属の看護学校からの実習や実践者研修の実習者の受け入れを行っている	○	認知症地域社会資源マップに登録し、地域との関わりを密にしていく。認知症サポーター養成講座の開催。AEDを購入し、使用方法の講座会を開催

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行うにあたり、意義の説明がカンファレンスであった。外部評価後にはカンファレンスにて報告・説明がある	○	前回の結果で提案を受けたものの中にまだ改善されていないものもあり、今取り組みの途中である
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長及び家族の方々の意見を聞き、サービスの向上に努めている	○	今後、地域包括支援センターの協力を得て、より良いサービスを実施していきたい(先方との情報交換はできている)
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所の介護福祉課との連携を図り情報交換を行って、利用者・家族との意見を取り入れている	○	今後も従来通りの意見交換を密に取っていきたい
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	このような制度を学ぶ機会は殆どなく、スタッフの認知度にばらつきがあるように思う。	○	研修会があれば積極的に参加するように働きかける
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の意識をスタッフは持っており、研修会へも参加し防止へ努めている。研修会の参加者から、カンファレンスにて報告してもらい、全員が周知できるようにしている		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の前に事業所の重要事項の説明と見学をして頂き、本人・家族から不安・疑問点を聞き、理解が得られるよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	談話の中で訴えてくる時もあり、そのような時は管理者・スタッフで話し合い、改善している。また、苦情窓口が設置されている。(現在まではまだ出ていない)	○	苦情があった場合は、内容を明らかにし、公表する
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	暮らしぶりについては、管理者・スタッフが報告したり、年4回発行している事業所の新聞に載せている。健康状態については、管理者・看護師が報告。金銭管理は管理者が行っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来訪してきた時に、管理者やスタッフに言って下さり、意見・不満があった時は、話し合い、反映させている。また、苦情相談窓口を設置しており文章にて掲示している		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスの時、また、個別的にスタッフの意見や提案を聞いて反映させている	○	個人面談を行うと、より意見が聞けて反映できると思う
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	スタッフに対し業務内容や支援の方法についてアンケートを取り、集計後、カンファレンスにて今後について検討し勤務の調整に努めている(4人体制や、入浴時の2人介助等)		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は1年に1回とし、1人ずつの異動やバランスを考えて行っている。入居者を不安にさせないよう、その時の状況に応じた配慮もできている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	近隣の研修会は、自主的に参加したい人のみ行っている。最近は月1回ペースで外部から講師を招き勉強会を行っている。また、日常の勤務の中でもその都度指導がある	○	近隣の研修会には、自主的ではなく順番に強制的に参加。それによりレベルアップにつながると思う
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中空知地域で認知症を支える会の研修会に参加し情報交換を行っている。他ホームの方々と交流をはかり情報交換を行っている	○	他ホームから新聞をいただいた時は、各館に掲示する。他ホームへの見学
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務見直し等でストレスを軽減する為の工夫がなされている。本社に苦情窓口がある		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者が施設長へ努力・実績等報告している。また、勉強会・講習会の開催予定の情報を提供している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族・他の事業所より相談を受けた時には、1度本人に見学に来て頂き、本人の希望や利用に関してどう思っているかを聴き、受け止めている。利用に対し不安がある場合、時間をかけて何度か面談をし、安心して利用できるよう支援している		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	他の事業所より相談を受けた場合にも、家族に事業所の方に見学に来て頂き、その時困っている事や求めている事を聴き、受け止めている。利用までの間もこまめに連絡を取り情報交換等をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族からの相談を聞き、場合によっては市役所への問い合わせを勧めたり、他施設の紹介などを行っているが、他サービスへの具体的な支援は行っていない	○	他の事業所との連携を図り、継続的にサービスが利用できるよう支援していく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームの事前見学をしてもらっている。入居直後は声がけしながら様子観察し、ホームを知ってもらう事に重点を置いている。家族とこまめに連絡を取り、情報を共有している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	傾聴を心掛け、喜怒哀楽を共有している。季節の行事(お正月の迎え方、おはぎの作り方等)の知恵をかりている。また、本人のペースに合わせ、同じ時を過ごすようにしている	○	人生の先輩として尊重する事を忘れず、今の生活を守っていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪してきた時に、日常の様子を伝え、情報を共有している。また、受診に付き添ってもらい一緒に本人を支えていくよう支援している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係については、最初の情報と、管理者からの情報提供により理解している。また、家族が来訪した時には居室でゆっくりと過ごしていただいている。家族との外出・外泊・宿泊も行えるよう支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	毎月教会へ外出している入居者がいる。また、以前から通っていた理美容室や、マッサージにも行っている。友人宅へ遊びに行ったり、電話を掛けたり、友人が遊びに来たりもしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	1人1人の状態から、集団での役割・入居者同士の関係作りを相性を踏まえ働きかけている。孤立しがちな入居者に対しては、間にスタッフも入り入居者同士が関われるように支援している。また、リビングにソファを置き、集まって談話・レク等を行っている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ほとんどが、事業所から入院にてサービス終了となること多く、お見舞いなども行けていない。入院先の病院には、今までの経過や日常生活での様子を伝えている	○	本人・家族が安心できるよう関係性を継続していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用し、本人の希望等の把握に努めている。また、日常の会話や表情・行動からも把握できるように努めている。困難な場合は、本人本位で考え、家族からの意見も取り入れて検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用し、本人や家族から様々な情報を提供していただき、個人ファイルを作成し、把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	1日の様子を24時間シートに記入し(会話・表情・行動)申し送りで把握している。また、有する力については、3ヶ月ごとに記入するB-3シートで把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ1人ずつ作成したE表をもとに、定期的にカンファレンスを開き、家族からの意見を取り入れ、介護計画を作成している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	半年ごとにモニタリングを行い、評価を行っている。変化が生じた場合は、臨時にカンファレンスを行い、支援の方法を検討し、計画に追加又は変更している		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間シートを利用し、日常の様子を記入し、必要に応じて確認し、情報を共有し、計画の見直しに役立てている。しかし、実践した事や気づき、工夫を記録できていない時がある。	○	内容の濃い記録ができるよう、記録の方法について勉強会を行う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医師の定期的な往診(歯科も含む)により、外来受診の負担が軽減されたり、本人の要望で受診したい時はホームの看護師やスタッフが同行している。訪問美容もある		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	救急救命の講習会や、年2回の避難訓練を行い、消防署と連携を取っている。また、イベント時、ボランティアの方々に協力をお願いしている	○	心肺蘇生法の講習会を定期的に開催していく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他市の訪問美容サービスの利用を行っているが他の事業者と話し合いにより、他のサービスの利用は行っていない	○	今後は、地域でその人を支えることに重点を置き、他の事業者と協働し、様々なサービスの利用を検討していく
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	中空知地区では、認知症地域資源マップがあることを最近知ったが、利用までに至っていない	○	マップに登録し、他の事業者と協働して活用していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前より通院している病院への受診が出来る様、家族の協力を含め支援している。定期的な往診もある。看護師が主に医師と連携を取り、スタッフに情報提供している		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関があり、1人1人の状態に応じてアドバイスをもらい、支援につなげている		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所では看護師1名が勤務しており、入居者の健康管理をスタッフと共に行っている。受診・往診の対応や薬の管理をしており、医療についてのアドバイスもあり日常に生かしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中も様子を見に行ったり、病院の看護師と情報交換を行い、早期退院できる様に努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医と家族の意見を踏まえての話し合いは行われているが、早い段階からの説明は行われていない	○	家族に対し、今後起こり得る状況なども踏まえ、こまめに情報を提供していく
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医の意見を踏まえ、重度化した入居者に対する支援の方法について、カンファレンスで話し合い実践している。今後予測される変化に備えての検討は不十分	○	家族・かかりつけ医と十分に話し合いを重ね、入居者が日々より良く生活できるよう、今後の危険性も踏まえ、家族・スタッフの不安を取り除く為にも検討していく

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	個人ファイルを作成し、情報収集している為、移動があった場合もダメージを少なくしていけるものと思う		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	1人1人は自覚しているが徹底はされていない	○	全体のカンファレンスなどで意識付けを行っていききたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	1人1人の思いを傾聴し、自己決定できるよう支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人の生活のペースを尊重できるよう心がけ、支援しているが入浴の時間などでは本人の希望に沿えていないこともある	○	出来る限り、希望に沿って柔軟な支援をしていきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に理美容の方が来所し利用している。他の理美容の利用は家族の協力のもと行っている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	1人1人の希望に添えるよう好みの物などの把握をし、提供している。食事作り・後かたづけなどはできること、できないことを見極め、一緒に行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは、常時スタッフの休憩室にて吸えるようになっている。おやつは時間を決めて提供。状況によっては自らが購入したものや家族のかたの提供によるもので楽しめている。お酒は、イベント時や外出時に楽しめるよう支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	1人1人の排泄パターンを把握し、午前中にはパットを外すなど個々に合わせた支援をしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回以上の入浴を支援しているが、時間帯・曜日は、職員の都合で決めていることがある。希望がある時には入浴できるよう支援している	○	職員の都合に合わせるのではなく、できるだけ本人の希望に沿った日時に入浴できるように支援していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝前はゆっくりとした時間を過ごせるよう努めている。眠れない時はホットミルクなどを提供している。日中傾眠が多い時には30分～1時間の休息ができるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	できること・できないことを見ながら、編み物・草むしり・物作りをできる環境作りに努めている	○	気晴らしになるよう、ゆっくりと会話できる時間を設けていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の状況を観て少額のお金を所持し、買い物やイベント時に自らが使用できるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	状況と気候を見て散歩を行っている。また、買い物など自由に外出できるよう支援している	○	気晴らしになるようドライブなどの支援を柔軟に行えるよう家族の協力を得ながら行っていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出・外泊を希望があればいつでも行けるようになっている。また、イベントとしてデパートや温泉、りんご狩りなどに行ける機会をつくっている		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りをしている。スタッフからも電話をかけやすい環境づくりを行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問された時には各居室にてゆつくりと過ごせるよう、また、訪問しやすい雰囲気作りに努めている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人一人の状況により、身体拘束をしない方向で考え取り組んでいるが、具体的内容は全員が把握できてはいない	○	今後、研修会や勉強会を開き、全員が把握できるように努めていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は開放しているが、5時以降にはスタッフが少なくなる為入居者の安全を確保する為、施錠している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ホーム周辺を散歩する入居者に対しては、個人の時間を大切にできるよう、事故にならないよう見守り、付き添いをしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁・洗剤など、共有物については夜間鍵の付いている場所へ保管している。各居室では危険なものは本人との話し合いにて取り除いている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成中。一人一人についての事故防止策は話し合いが不十分である	○	一人一人についての危険予測については、しっかりとスタッフ間で検討が必要
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習を受けたことはあるが、その他の訓練は行っていない	○	救急マニュアルに沿った訓練を定期的に行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練は年2回行っている。その他の災害の訓練は行っていない。地域への働きかけはできていない	○	地震・水害のときはどのような対応をすれば良いか専門家に教えていただく。火災訓練時には地域の方にも参加していただくよう働きかけていく
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	必要時には、施設長・管理者・看護師が家族に対して説明を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝・夕方の申し送りにて、1人1人の状態を把握し、早期発見に努めている。異変があったときには情報を共有し、状況にあった対応をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の支援については1人1人確認し支援方法もスタッフ間で統一されている。変更時には申し送りと記録にて全員が把握している。薬の作用などの情報については、全員が把握できているかは不明	○	スタッフそれぞれが意識して、個人ファイルに目を通し把握する。薬に関する知識を増やせるよう、勉強会など行っていく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	腹部マッサージや、毎朝牛乳・プルーンを提供している。食事では繊維のあるものが入るよう工夫している。また、できるだけ運動ができるよう、体操・散歩を取り入れている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の声掛けを行い1人1人に合った方法で口腔ケアを行い、週1度の義歯洗浄を行っている。自立している方の口腔内の状態は把握できていない	○	自立している方は、歯科往診時や、定期健診など行う
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量、水分量は観察・記録により把握している。1人1人に食事の形態を変えることもある		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には、感染症がないか確認している。インフルエンザはスタッフ・入居者が予防接種を行っている。感染予防マニュアルを作成し、対応について説明。感染予防講習受講者は、カンファレンス時に報告にて全員に周知している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	包丁・まな板・布巾を毎日除菌している。ホームで採れた新鮮な野菜を使用している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節に応じて玄関に花を植えている。近隣の方がホーム周辺に花を植えてくださっている。履物の脱ぎ履きがしやすいよう玄関に椅子を設置している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアには季節の花を飾っている。音や光が不快にならないよう配慮している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特別工夫をしていることはないが、入居者同士好きなように過ごしたり、1人で本を読んだりと思い思いに過ごさせている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはなじみの物を持ってきており、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、家族との写真を飾っている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	トイレ以外の各居室も換気扇を必要に応じて作動している。室内の温度は、寒暖計・湿度計共に確認し、快適に過ごせるように努めている。冬の期間は加湿器を使用している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内には段差は殆んどなく、安全に配慮できている。手摺りも付いており身体機能を活かし自立した生活が送れるよう支援している。必要となった場合、手摺りの増設をしている	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室・トイレがわかるように、表札や矢印、解りやすい目印を付けている	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏には中庭にテントを張り、椅子やテーブルを置き、自由に外に出て過ごせるような環境を作っている。畑があり、草むしりや収穫も自由にできるよう支援している	

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ○ ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ○ ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ○ ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ○ ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ○ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ○ ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ○ ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ○
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ○
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない ○
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない ○
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない ○

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）